

## 未来の養分

(原文)

石川 結子 (14 歳)

東京都

立教女学院中学校

「いのち」を辞書で調べると「生物の生きていく原動力。生命力」や「寿命」、「最も大切なもの」とある。また、「一生」ともある。

私たち人間の一生は、よく花の一生に例えられる。種から芽が出てきて成長し、つぼみができて、花が咲いて、散る花の一生が生まれて大人になって人生を最高に輝かせて、死んでいく人間の一生に似ているというわけだ。

しかし、本当に人間の一生と花の一生は似ているだろうか。私たちは人生の目標やゴールを花を咲かせることに設定しがちだ。確かに花は美しい。花を咲かせるために生きてると誤解しそうになる。でも実際は花は種を作るために咲いている。そして、子孫の為に未来に希望を残して自らが死ぬとき、土の養分となるのだ。つまり、花の一連の行動は全て未来の為にやっていることなのである。

もし、私が日常に意味や価値を見いだそうとせずに毎日を過ごして死んだら…。小さな花ぐらいなら咲かせることができるかもしれない。しかし、養分になれるだろうか。花のように未来の為になるもの、未来への希望を残して死んでいくことはできないだろう。きっと、ただの塵となって、この世から消えていくだけだ。だから、私は花のように未来の養分を作って死にたい。

では、未来の養分とは具体的にどのようなものだろうか。

例えば、近代科学の父として有名なガリレオ・ガリレイは当時主流だった哲学・宗教的な解釈ではなく、自らが実験・観察をした事実を前提に現象を解釈しようとした。また、彼は自身の研究の全てを書き残した。これらの行動で彼は、後の科学が発展する基礎、つまり、未来の養分を残したのである。この様にある分野で基礎となるものや偉大な発見を未来の養分として残していくことは本当に素晴らしい。また、それらで社会は発展し、養分を残した人々は歴史に名を残す。

けれど、彼らのように歴史に名を残すことができるのは僅かな人だ。もっと身近に養分となるものは存在している。例えば、買い物に行くときはエコバックを持参する。ペットボトルではなく、水筒を持ち歩く。これらの行動は全て未来の環境を守ることに繋がっている。もし、この行動を未来の娘や息子に教えたら、この行動は受け継がれていく。つまり、立派な養分となるのだ。一人一人の些細な行動がしっかりと未来につながっているのである。

だから、一時だけの美しさ、利益ではなく、長い目で見た時に結果として、未来の為になるものを

生み出すべきなのだ。実際、目先の利益だけを求めた結果、時間がたった現在に深刻な環境問題などの影響が及ぼされている。私たちは未来の養分となるものをたくさん吟味して決めていく必要がある。私たちは私たちが汚してしまった地球を私たちの手で直して未来の人々へ渡すべきなのだ。そのために、私たちができることを考え、行動していかなければならないのだ。

私は未来の為にこれから先、探求心・向上心をもって様々なことを学び、理解し、多くのものに関心を持ちたい。それらに意味・価値を見いだして、私にしか作れない未来の養分となるものを生み出していきたい。

私は将来、研究者となって、地球にも生き物にも優しいエネルギー資源の研究に関わりたい。そのために今、様々なことにアンテナをはり、学んでいる。また、私にもできる未来の地球のための行動として、緑のカーテンを作って夏の暑さを和らげたり、リサイクルをして資源を有効活用したりしている。このように、未来への行動は身近なことから今すぐに始められる。その積み重ねが未来の養分の材料になるのだ。

今、私たちが生きる土の下にはたくさんの養分がある。私たちによって有効活用されているもの、まだ眠っているものなど色々ある。そんな先人からの私たちに託された養分を起こすのも、生かすのも、殺すのも、全て私たち次第だ。その養分を使って、新たな養分を生み出すことが私たちに「いのち」が与えられた意味なのだ。